



TITLE:

經濟心理學ノ組織的研究(三)

AUTHOR(S):

米田, 庄太郎

CITATION:

米田, 庄太郎. 經濟心理學ノ組織的研究(三). 經濟論叢 1917, 4(3): 373-382

ISSUE DATE:

1917-03-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127179>

RIGHT:

京都帝國大學法學大科大學

經濟論叢

第四卷 第三號

大正六年三月一日發行

論說

資本

文學博士

內田 銀藏

殖民地ノ分類ニ就キテ

法、文學士

山本美越乃

支那經濟思想ノ出發點(一)

法、文學士

小島 祐馬

體質廢頽問題(三)

文學博士

財部 靜治

經濟心理學ノ組織的研究(三)

文學博士

米田庄太郎

時事問題

取引所増資問題

文學博士

戸田 海市

米獨斷交ト我經濟界

文學博士

小川 郷太郎

毛羊問題

文學博士

神戸 正雄

雜錄

經濟雜話(九)

文學博士

田島 錦治

米國鐵道從業者八時間勞動問題

文學士

河田 嗣郎

露西亞ノ國民經濟ニ於ケル歐洲的要素

文學士

米田庄太郎

維新後ノ戶數ト人口トノ關係

文學士

本庄榮治郎

あーのるど・といんびート經濟書

文學士

武藤 長藏

佛蘭西財政及經濟學者バリーウー逝ク

文學博士

神戸 正雄

新著紹介

經濟心理學ノ組織的研究(三)

米田庄太郎

(六)

たゞるゝ先生ノ信憑說ニ於テ、先生ノ經濟心理學ヲ十分ニ理解スル爲メニ、特ニ重要ナルモノハ前節ニ於テ述ベシガ如キモノ
デアルガ、終リニ先生ノ「心ト心ノ心理學」ノ概念ニ就テ少シク述ベテ置ク。蓋シ是レモ亦先生ノ經濟心理學ヲ深ク理解スル爲
メニ必要デアルカラデアル。

サキニ述ベシ如ク、たゞるゝ先生ハ社會學ハ根本的ニハ社會心理學デアルト觀念セラレ、而シ
テ社會心理學ト云フ語ヲ以テ、心ト心ノ一切ノ關係ヲ研究スル科學ヲ云ヒ表ハスモノト考ヘテ居
ツタ。然ルニ晩年ニ至リ、心ト心トノ關係ノ總テガ悉ク社會的ノモノデハナクシテ、中ニハ非社
會的ノモノモ、反社會的ノモノモアルコトニ注目シ、茲ニ一切ノ心ト心トノ關係ヲ研究スル科學
ト社會心理學トヲ區別スル必要ヲ感じテ、前者ヲ特ニ「心ト心ノ心理學」ト稱シ、而シテ社會心理
學ヲ其ノ一部分ト觀念セラルルニ至ツタノデアル。一層適當ニ先生ノ考ヘラ云ヘハ、ツマリ心ト
心トノ一切ノ關係ヲ研究スル科學ノ名稱トシテ、社會心理學ト云フ語ヨリハ一層一般的ナル語ノ
必要ヲ感シ、「心ト心ノ心理學」ト云フ新語ヲ造ラレタノデアルカ、夫レヨリシテ社會心理學ハ

「心ト心ノ心理學」ノ一部分ト見做ス可キモノトナツタノデアル。隨フテ論理的ニ突キ込ンデ行ケバ、社會學ハ「心ト心ノ心理學」ノ一部分或ハ一分科デアルト見做サネバナラナクナルノデアル。併シ是レハ恐クハ先生ノ眞意デハアルマイト思フ。要スルニ先生ハ始メ心ト心トノ關係ヲ主トシテ其ノ社會的關係ヲ生ズル方面ニ就テ研究サレ、隨フテ其ノ研究ヲ社會心理學ト稱シテ居ラレタガ、後只社會的關係ヲ生ズル方面ニ就テ研究スルダケデハ、十分ニ心ト心トノ關係ヲ理解シ難イコトヲ覺リ、夫ヨリアラユル方面ニ就テ心ト心トノ關係ヲ研究セント企テ、而シテ其ノ研究ヲ社會心理學ナル語ガ普通ニ解セラレルヨリハ一層汎キ意味ヲ有スル「心ト心ノ心理學」ト云フ語ヲ以テ云ヒ表ハサントセラレタガ、併シマダ其研究ヲ組織的ニ遂行シ、之ト社會學トノ關係ヲ新タニ決定スルニ至ラザル中ニ死去サレタノデアル。若シ先生ガ尙ホ數年存命セラレ、右ノ研究ヲ十分ニ遂行サレタナラバ、恐クハ社會學ノ概念ヲ擴張シテ「心ト心ノ心理學」ガ卽チ其ノ骨髓デアルト觀念サレタデアラウト思フ。而シテ社會學ノ骨髓ヲ此ノ如クニ觀念スルト、其ハ卽チ余ガ純正社會學ト稱スルモノトナルノデアル。但シ余ノ純正社會學ト稱スルモノハ、其内容ニ於テ、亦組織方ニ於テ先生ノ「心ト心ノ心理學」トハ大ニ異ナツテ居ル。⁽¹⁾ 併シ心ト心ノ關係、殊ニ其ノ相互的關係ノ一切ヲ其ノ最トモ根本的ナ一般のナ方面ニ就テ研究スルト云フ主意ニ於テハ、余ノ純正社會學ハたゝるど先生ノ「心ト心ノ心理學」ト一致シテ居ルノデアル。

却説たゝるど先生ハ「心ト心ノ心理學」ノ一般の概念ヲ上述ノ如クニ決定シ、夫ヨリ其ノ考案ヲ概論サレテ居ルガ、先生ハ先ヅ之ヲ發生的の見地ヨリ考察スル部門ト、理論的ニシテ一層一般のナ

(1) L' inter-psychologie. Archives d' anthropologie Criminelle, 1904.

(1) 日本社會學院年報、第一年、第一冊及び第二冊合本并ニ第三冊參考、

ル見地ヨリ考察スル部門トニ大別シテ居ル。發生的見地ヨリ考察スル部門ニ於テハ、先ヅ嬰兒ト周圍ノ人格者トノ間ニ起ル心ト心ノ最初ノ關係ヨリ研究シ始メ、夫レヨリ順次ニ進シテ成年者間ニ於ケル心ト心トノ關係ヲ研究シ以テ心ト心トノ關係ノ全體ヲ發生的進化的ニ考察スルノデアル。而シテ理論の見地ヨリ考察スル部門ニ於テハ、先ヅ一人ノ感情ガ他人ノ感情ノ上ニ及ボス作用、一人ノ意志ガ他人ノ意志ノ上ニ及ボス作用、一人ノ知力ガ他人ノ知力ノ上ニ及ボス作用等ヲ抽象的ニ別々ニ研究スル。但シ此場合ニ注意ス可キハ、先ニモ述ベシ如ク、感覺ハ其儘ニテハ一人ヨリ他人ヘ傳ハルモノデナイガ、併シ之レニ信ト欲トカ結合シテ生起スル情緒及ビ情操ハ傳染力、即チ一人ヨリ他人ヘ傳ハル力最モ大ナルモノデアルコトデアル。次ニ「心ト心ノ心理學」ハ相關係スル箇人ノ點カラ見テ左ノ五種ノ場合ヲ區別シテ研究ス可キモノデアル。(1)一人ガ他ノ一人ノ上ニ作用スル場合、(2)一人ガ群集ノ上ニ作用スル場合、(3)群集ガ一人ノ上ニ作用スル場合、(4)一人ガ公衆ノ上ニ作用スル場合、(5)公衆ガ一人ノ上ニ作用スル場合。終リニ「心ト心ノ心理學」ハ感情、意志及ビ知力ノ傳遞ノ何レノ場合ニ於テモ、一ノ心ガ他ノ心ノ上ニ及ボス暗示作用ガ如何ナル外部的及ビ内部的條件ニヨリテ制約サレルカラ研究スル。而シテ其等ノ條件ハ大體上物理的條件、生理的條件、心理的條件及ビ社會的條件ノ四種ニ大別サレルカラ、ツマリ此等四種ノ條件ガ心ト心トノ傳遞關係ヲ如何ニ制約スルカラ研究スルコトニナルノデアル。尙ホ「心ト心ノ心理學」ハ其ノ研究方法ニ於テ大ニ箇人心理學ノ方法ノ援助ヲ仰クガ、併シ夫レ自身特有ノ方法ヲモ有ツテ居ル。夫レハ社會的精神物理學トモ稱ス可キ統計的方法デアル。而シテ「心ト心ノ心理學」ガ以上述

ベシ諸方面ニ就テ、又方法ヲ以テ、心ト心ノ關係ノ一切ヲ研究スルコトニヨリテ、經濟學、藝術學、宗教學、言語學其他諸般ノ社會科學ノ發達ニ對シテ重大ナル貢獻ヲナシ得ルノデアル。⁽¹⁾

以上述べ來リシ處ニヨリテ、たゞ先生ノ經濟心理學ヲ十分ニ理解スル爲メニ特ニ必要ト思ハルル先生ノ哲學、心理學、及ビ社會學上ノ主要ナル思想ノ一般ヲ明ラカニシタト信ゾルガ、是レヨリ先生ノ經濟心理學ノ研究ニ這入ルコトスル。

(七)

今たゞるど先生ノ經濟心理學ノ研究ヲ企ツルニ當テ、先ヅ注目セラルルハ社會科學ニ於ケル經濟學ノ地位并ニ其ノ範圍ニ關スル先生ノ見解デアル。⁽²⁾ 先生ハ經濟學ノ重要ヲ十分ニ承認シ、又其ノ最モ進歩セル社會科學ナルコトヲ認ムルト同時ニ其ノ大ニ他ノ社會科學ノ領分ヲ侵シテ、夫レ自身ガ社會科學ノ全體トナラントスルガ如キ傾向アルヲ非難シ、經濟學ノ基本觀念、即チ價值、貨幣、財産、勞働、資本、分業、團結、人口等ノ諸觀念ヲ一々批判的ニ吟味シテ、其ノ各ガ如何ナル方面ニ於テ經濟學ニ屬シ、又如何ナル方面ニ於テ他ノ社會科學ニ屬スルカヲ明ラカニシ、以テ經濟學ノ範圍ヲ出來ルダケ嚴格ニ限定セント試ミテ居ル。併シづゆはん氏モ論ジテ居ル如ク、先生ノ見解ハ主トシテ舊派ノ經濟學ヲ目當ニシテ立論サレテ居ツテ、今日ノ經濟學ニハ適用サレ難イ點ガ多イノデアル。⁽³⁾ ソレデ此問題ニ就テハ、茲ニハ只價值ト經濟學トノ關係ニ關スル先生ノ見解ノ大要ヲ述ベテ、其ノ一斑ヲ示スニ止メテ置ク。

今經濟學者ハ價值ヲ自分ノ占有スル問題ノ如ク考ヘテ居ルガ、併シ價值ハ其ノ最モ廣イ意味ニ

(1) L' interpsychologie, Archives d' Anthropologie Criminelle, 1904.

(2) La psychologie Économique. Tome I^{re}. p.p. 63-96.

(3) Dupont, Gabriel Tarde et l' Économie politique, 1910, p. 100.

於テハ社會科學全體ヲ包括スルモノニシテ、經濟學ノミノ占有ス可キモノデナイ。價值ハ其ノ一般の意味ニ於テハ、色ノ如ク吾人ガ物ニ認ムル形質ニシテ、又色ノ如ク實際ニ於テハ只吾人ニ於テノミ存在スル全ク主觀的ナモノデアル。詳シク云ヘバ價值ハ種々ナル度合ニ於テ信ゼラレ、欲望セラレ、味ハル可キ物ノ性能ニ對シテ、多數ノ人々ノ下ス集合的判斷ノ一致和合ヨリ成立スルモノデアル。而シテ其ノ信ゼラレ、欲望セラレ、味ハル可ク判斷サル度合ノ差異ト、其ノ判斷ヲ下ス人々ノ數ノ差異ニヨリテ價值ノ大小ガ決定サレル。サレバ價值ト稱セラルル形質ハ本來量的ナモノデアル。而シテ此ノ抽象的分量ハ、共同生活ノ三基本觀念ニ準ジテ三大範疇ニ分タル。一ハ眞理價值 *La Valeur-Vérité* 二ハ實利價值 *la Valeur-utilité* 三ハ美價值 *la Valeur-beauté* デアル。而シテ此ノ價值ノ根本分類ニ準ジテ社會科學ノ三大分科ガ當然發達ス可キモノデア
ル。一ハ眞理論ニシテ、眞理ガ言語的認識、宗教的信仰、熱誠的信任、科學的認識等ニ小分サル
ルニ從フテ又幾多ノ小部門ニ分タレ、二ハ實利論ラベール、シヤリヤ、ラベール、シヤリヤ或ハ財論ト稱ス可キモノニシテ、其ノ中ニ權力論、權利論、功勳論、富論等ヲ包括シ、三ハ美論ミューゼ、アムール、ミューゼ、アムールニシテ美術及ビ文藝ノ種類ノアルダケニ小分サレル。而シテ經濟學ハ富論デアルカラ、社會科學ノ全體ヲ包括スルモノデナイノミナラズ、其ノ一分科タル實利論或ハ財論ノ全體スラモ包括スルモノデナイ。此理ヲヨク辨ユレバ社會科學ニ於ケル經濟學ノ地位ヲ正當ニ觀念シ、又其ノ範圍ヲ正當ニ限定スルコトガ出來ルノデア
ル。

今たしるど先生ガ價值論ノ上カラ見テ社會科學ヲ眞理論ト實利論ト美論トノ三分科ニ分チ、經濟學ヲ實利論ノ一部門ト見ル此ノ見解ト、サキニ述ベシ如ク信慾論ノ上カラ見テ、社會科學ヲ元素

的社會學ト社會論理學ト社會目的學トニ分テ、經濟學ヲ以テ社會目的學中ノ一科學ト見ル見解トハ如何ナル關係ヲ有スルモノデアルカト云フ問題ハ自カラ吾人ノ腦裡ニ浮ンデクルノデアルガ、先生ハ何處ニ於テモ別ニ此問題ヲ論ジテ居ラナイ。併シ始メノ社會科學分類論ニ於テ、美學ハ社會目的學ノ中ニ含マレテ居ルコトカラ考ヘルト、眞理論ハ社會論理學ト一致シ而シテ實利論ト美學トハ社會目的學ノ中ニ含マルモノト推察サレルノデアルガ、然ルニ「經濟心理學」第一卷百五十一頁ニ於テ、先生ガ美學ヲ除ケバ社會學ノ殆ンド全體ハ社會論理學カ又ハ社會目的學カノ中ニ包括サレルト云ハレテ居ルコトカラ考ヘルト、晩年價值論ヲ詳シク考究セラレ、之ヲ上述ノ三分科ニ分タレルニ至ツテ、始メノ社會科學分類論ヲ少シク修正サレタト思ハレル。即チ社會目的學ヲ全ク實利論ノ意味ニテ觀念シ、而シテ美學或ハ美學ヲ以テ之レト對立スルモノト考ヘラルルニ至ツタノデアル。而シテ先生ノ精神ニ要素說及ビ美價值ハ本來感覺の性質ノモノデアルト見ル見解ノ上カラ考ヘルト、此ノ如ク美學ヲ社會論理學及ビ社會目的學ニ對立スル一科學ト見ル見解ハ、始メノ如ク之ヲ社會目的學ノ一分科ト見ル見解ヨリモ一層穩當デアルト思ハレル。サレバ先生ノ社會科學分類論ハツマリ一切ノ社會科學ヲ元素の社會學ト社會論理學ト社會目的學ト美學トノ四分科ニ大別シ、而シテ經濟學ヲ以テ社會目的學ノ一分枝ト見ルコトニナルノデアル。然ルニ余ノ科學論ハ先生ノ夫レトハ種々ノ點ニ於テ異ナツテ居ルカラ、余ハ先生ノ社會科學分類論モ亦經濟學ノ概念モ其儘ニ承認スルコトハ出來ナイ。サレド茲ニ余ノ見解カラ見テ先生ノ說ヲ論評シテ居ル餘白ハナイカラ、直チニ次ノ問題ニ移ルコトトスル。

たゝるゝ先生ノ經濟心理學ニ於テ、次ニ注目ス可キハ、經濟學ノ組織方或ハ部門分ケニ關スル先生ノ見解デアル。⁽¹⁾此問題ニ就テハ先生ノ見解ハ殆ンド革命的ナモノデ、今日經濟學者自身モ傳來ノ部門分ケニ不滿ヲ感ジ、種々新シキ試ミヲナシツツアルニ當ツテ、先生ノ見解ハ吾人ニ少ナカラズ興味ヲ起サシメルノデアル。

先生ハ先ヅ傳來ノ部門分ケ、即チ生産、循環、分配及ビ消費ノ四部門ニ分ツコトヲ批評的ニ吟味シテ、循環ハヂーゴ氏ノ論ゼラレシ如ク、分業ノ一結果及ビ其ノ一方面ニ外ナラズシテ、生産ヨリ獨立スル一部門ヲナスモノデナイト論定シ、又消費モ生産ヨリ離ス可カラザルモノニシテ、理論的ニハ其レト結合シテ觀念セラル可キモノデアルト論斷シ、而シテ分配ニ就テハ、若シ夫レガ富ノ散布ヲ意味スルナラバヤハリ生産ノ中ニ含マル可ク、又若シ夫レガ富ノ交換、占有、及ビ交換者ノ間ニ成立スル自由ナ或ハ強制的ナ團結ヲ意味スルナラバ、夫レハ本來適應ノ一現象トシテ同種ノ他ノ諸現象ト共ニ考究セラル可キモノデアルト論ジテ居ル。此クテ傳來ノ部門分ケノ中デ只生産ノミガ殘ルコトニナルガ、先生ハ此生産ト云フ語モ穩當デナイトシテ、之レニ就テニケノ缺點ヲ指摘シテ居ル。一ハ生産ト云フ語ハ實際ニ於テハ既ニ生産サレタル富ヲ復産（ル・ロザン・シモン）スル方法ヲ意味シテ居ルノデ嚴密ニ云フ生産ヲ意味スルモノデナイトコト、二ハ此語ハ人的關係、即チ生産者ノ關係ヲ適當ニ考察シテ居ナイコトデアル。然ラバ先生ハ新ラタニ如何ナル部門分ヲ立テントシタカト云フニ、サキニ先生ノ科學概念ヲ述ベシ際ニ示セシ如ク、先生ハ一切ノ科學ハ其對象トスル現象ノ反復、反對及ビ適應ヲ研究ス可キモノデアルト考ヘルノデアルガ、今此ノ見解カラシテ、

(1) Psychologie Economique. Tome 1, p.p. 97-106.

先生ハ經濟現象ニ於テモ先ヅ經濟的反復、經濟的反對及ビ經濟的適應ノ三大部類ヲ區別シ、而シテ之レニ準ジテ經濟學ヲ三部門ニ別タントスルノデアル。即チ第一部門ヲ經濟的反復論、第二部門ヲ經濟的反對論、第三部門ヲ經濟的適應論ト見ルノデアル。然ラバ先ヅ經濟的反復トハ何ヲ意味スルカト云フニ、先生ハ之ヲ解シテ「人々ノ同様ナル慾望、同様ナル勞動、其等ノ勞動并ニ其ノ結果ノ效用ノ大小ニ對シテ下セル同様ナル判斷、及ビ同様ナル取引等ノ傳播ノ見地カラ見テ、人々ノ間ニ成立スルト認メラル諸般ノ關係デアル」ト云ハレテ居ル。要スルニ慾望及ビ勞動ノ反復ヲ意味スルモノデアル。而シテ經濟的反復論ニ於テ先生ハ慾望、勞動、貨幣及ビ資本等ヲ論究サレテ居ル。次ニ先生ハ經濟的反對ヲ解シテ「人々ノ慾望及ビ效用判斷ノ間ニ起ル心理的ニシテ外部ヨリハ知覺サレナイ矛盾ヤ、競争、同盟罷業、商業的戰爭等ニヨリテ現ハル勞動ノ一層外部的ナ明白ナ衝突ノ見地ヨリ見タル人々ノ諸關係デアル」ト云ハレテ居ルガ、要スルニ慾望及ビ勞動ノ反對ヲ意味スルモノデアル。而シテ此部類ニ於テ代價、經濟的鬭爭、恐慌、經濟的律動等ヲ論究サレテ居ル。終リニ先生ハ經濟的適應ヲ解シテ、「古キ慾望ヲ充足スル爲メニ古キ發明ノ協働スル方面、或ハ既ニ發明サレタル富ノ復産ノ爲メニ人々ノ努力及ビ勞動ノ協同スル方面ヨリ見タル、人々ノ間ニ成立スル諸般ノ關係デアル」ト云ハレテ居ルガ、要スルニ慾望及ビ勞動ノ適應ヲ意味スルモノデアル。而シテ此部類ニ於テ先生ハ經濟的想像及ビ其ノ發達、財産、交換、團結等ヲ論究サレテ居ル。

今傳來ノ經濟學ノ部門分ケノ不充分不満足ナルコトハ、第十九世紀ノ終リ頃ニ至ツテ、經濟學

者ノ一般ニ強ク感ジテ來タコトデアツテ、夫レヨリシテ種々新シキ試ミガ現ハレタノデアル。例ヘバ正統派經濟學ノ勢力ガ最モ永ク保持サレテ居ツタ英國ニ於テモ、既ニまゝしやるノ經濟學ノ部門分ケノ如キハ餘程傳來ノモノトハ異ナツテ居ル⁽¹⁾。又ばれどヤシヨモらゝやくらゝくナゾノ部門分ケモ夫レ夫レ傳來ノモノトハ異ナツテ居ル。更ニ輓近ニ至ツテハ色々新シキ試ミガ現ハレテ居ル。併シたゞるど先生ノ部門分ケホド傳來ノモノト異ナレルハ他ニアルマイト思フ。サレバ諸家ノ新シキ試ミト比較的對照シテ先生ノ試ミヲ批判的ニ考察シ、其ノ眞價ヲ判別スルコトハ經濟學ノ理論的研究上甚ダ興味アルコトト思フガ、茲ニハ其ノ餘白ガナイカラ、只簡單ナル概評ヲ下スニ止メテ置ク。先ヅ其缺點トシテ二三ノ經濟學者ノ批評シタコトハ、一方ニ於テハ一般ニ經濟學上取扱フテ居ラナイ種々ナル問題ガ論究サレテ居ルト同時ニ、他方ニ於テハ一般ニ經濟學上取扱フテ居ル或問題ガ脱落シテ居ツタリ、又重要視シテ居ル問題ガ只附屬的ナ問題デアルガ如クニ論ンゼラレテ居ルト云フコトデアル。更ニ一般ニ經濟學上親密ニ結合スルモノトシテ取扱ハレテ居ル諸問題ガ、全ク切り離シテ論究サレネバナラヌコトナリ、尙ホ同一ノ問題モ少シク見ル方面ガ異ナルト、全ク切り離シテ之ヲ論究セネバナラヌコトナツテ居ルト云フコトモ亦非難サレテ居ル⁽²⁾。併シ是レハ傳來ノ經濟學ノ概念ヲ保持スルニ於テ、決點ト見ラレルコトデ、若シたゞるど先生ノ如ク經濟學ノ概念ヲ根本的ニ改新セントスル立場カラ見レバ、其等ノ點ヲ悉ク缺點トシテ非難スルコトハ出來マイト思フ。要ハ經濟學ノ概念ノ立テ方如何ニアルノデアル。ソレデ先生ノ部門分ケノ價值ヲ充分ニ評價スルニハ、更ニ經濟學概念問題ニ遡リテ論究セネバナラナクナル。併

- (1) Marshall, Principles of Economics. 1st Ed. 1890.
- (2) Pareto, Cours d'économie politique, 1896-96.
- (3) Schmoller, Grundriss der Volkswirtschaftslehre, 1900.
- (4) Clark, The Distribution of Wealth. 1899.
- (5) Mahaim, L'Économie Politique de M. Tarde. Revue d'Économie Politique, 1903. p. 12.
Dupont, Gabriel Tarde et l'Économie politique, 1900 p.p. 116-117.

シ是レハ甚ダ大問題デ到底茲ニ簡單ニ論述スルコトハ出來ナイ。しゆばん氏ガ此問題ニ就テ公ニセル批判的ナ好著作ニ就テ見ルモ此問題ハ如何ニ複雑ナ又深大ナ問題デアルカハ直チニ理解サレルノデアル。ソレデ余ハ茲ニハ此問題ヲ論究シヤウトハ思ハナイ、隨フテたゝるど先生ノ部門分ケニ就テ根本的ナ批評ヲ下スコトハ出來ナイガ、併シトニカク單ニ經濟學上カラ見テモ大ニ注意ス可キ價值アルコトハ、まにむ氏ガ種々ナル缺點ヲ指摘シナガラ左ノ如ク評シテ居ルノヲ見テモ推察サレルノデアル。たゝるど氏ノ考案ハ壯大モ調和モ尙ホ又單純性ヲモ缺イテ居ラナイ。其ノ壯大デアルト云フハ、是レ該考案ハ社會科學全體ノ考案デアルカラデアル。氏ハ反復ト反對ト適應ハ一切ノ社會現象ノ三重ノ方面ト見ルノデアル。其ノ調和ヲ缺イテ居ラナイト云フハ、是レ諸部分ガ相互ニ他ヲ督制シテ自カヲ連結シテ居ルカラデアル。而シテ其ノ單純デアルト云フコトニ就テハ、一切ノ經濟現象ヲ反復シ、反對シ、適應スル慾望ト勞動トニ還元セントスルヨリモ單純ナ何物ガアルカ。……殊ニ注目セラルル其等ノ缺點及ビ困難アルニ係ラズ、余ハ繰リ返シテ云フ、たゝるど氏ノ分類ヲ教科書ニ於テ採用セントスル人々ガ、氏ノ如クニ之ヲ使用スレバ、夫レハ確カニ人々ヲ魅スルモノ、又趣味深キモノトナルト。氏ノ分類ハ少クモ、氏ノ詳シク論述セル諸章ヲシテ、堅固ニ建設サレタル一體系ノ諸部分ヲナスモノトシテ、吾人ノ目ニ映セシメテ居ル。而シテ此事ハ既ニ夫レ自身ニ於テ一ノ趣味アル結果デアル」⁽²⁾

(1) Spann, Wirtschaft und Gesellschaft. 1907.

(2) Mahaim, ibid, p.p. 12-13.